



ソフィアバンク・副代表
藤沢 久美さん

私は子供のころから両親に「勉強しなさい」と言われたことはなく、「あなたの好きにしてください」という教育方針の下に育てられました。しかし、公務員だった父には、電磁石の作り方や簡単なパソコンの組み立て方なども教わりました。また、専業主婦だった母からは編み物や洋服を縫うなど、勉強に限らず何にでも興味を持つことができました。

小学校でも、教科書一辺倒というのではなく、身の回りのことを調べてレポートしなさいという課題が出され、近くのスーパーマーケットや工場などを訪ねて「売り上げはいくらですか」「どうすれば儲かるのですか」などと質問したことを覚えています。そして、優秀なレポートは学級新聞に掲載してもらえたのです。

教育 想 論

寒中マラソンと称して5キロを走ったこともあり、夏休みのプールでは延ターキを泳がされたものです。自己形成の大切な時期に、目標を与えられ、仲間と競争をして達成できたときの満足感は、とても貴重な体験

今の子供たちは過度に守られている 人間にはつらいことを乗り越えていく権利がある

でした。

本来の意味の「ゆとり教育」とは、私が受けたような体験学習ではないでしょうか。

私の受けた教育に比べると、今の子供たちは過度に守られている気がします。例えば、学校を訪問した私が児童や生徒たちに「おはよう」とあいさつすると、先生が飛んできて「知らない人にあいさつすると誘拐されるきっかけとなるのであいさつはさせていません」と言われます。いじめの原因になりそうなことは極力避けるのが現代の教育ですが、私はいじめが起き、それがいけないことだと知らしめることが本来の教育だと考えます。

また、先生の側も教育者としてのレベルを維持するために、（教員免許の）更新は必要だという気がします。

私は大学で講義することもありますが、「傷ついたことがない」「自分で決めたことがない」「やりたくないことはやらない」という学生が多く、悲しくなります。人間にはつらいことを乗り越えていく権利があり、そこに進化（イノベーション）が起きることを理解してもらいたいと願っています。（聞き手・生活情報センター部長 巽尚之）

「コラム」教育想論」の詳細はWeb「関西の教育情報」